

## ハネー・ムーンの「夜明けのスキヤット」

1969年5月、まだ海外への新婚旅行が珍しかった時代に、海外旅行は初めての妻と東南アジアへハネー・ムーンに出かけた。旅行先国と都市だけを決めた後は、乗り物やホテルはすべて現地に着いてから現地生情報と気分次第で手配する「世界に1つだけの旅」を楽しむ予定だった。

ところが、生憎この時マレーシア国内で中国人とマレー人との間に燻っていた民族対立がエスカレートして暴動へ発展し、ペナンへ向かうためバンコック空港で待機中突如マレーシア軍の戒厳令布告によりマレーシアの全空港が閉鎖され、ペナン便はキャンセルと知らされた。哀れ新婚さんは目的地へ向かうことが出来なくなり、一旦バンコック市内へ舞い戻り、作戦を練り直して旅行先をペナンとシンガポールからタイ国内の地方古都に変えることにした。幸いいまや「世界遺産」都市となった、山田長政ゆかりのアユタヤへ列車で向かい、天井からヤモリが落ちこちてくるような安宿モーテルに泊まったり、史跡チェンマイでは山岳民族と触れ合ったり、普通では味わえないハプニングを体験した。

いまではなくなってしまったが、この当時バンコック市内のルムピニ公園傍に建っていた質素なホテルのレストランでは、毎朝「ル～、ル～ルルル～」のスキヤットで始まる、由紀さおりの「夜明けのスキヤット」のBGMが流れていた。僅か2か月前に日本でリリースされたばかりのレコードは、早くもタイで人気を呼び海外でもヒットして、国内ではその年爆発的に売れてオリコン年間1位となった。

2011年それがジャズ・アンサンブルのピンク・マルティーニのCD「1969」にカバーされ、翌12年逆輸入されて歌手の由紀さおりは再び脚光を浴びることになり、我々老夫婦はサプライズ続きのハネー・ムーンを思い出させられることになった。ピンク・マルティーニのリーダーであるトーマス・ローダーデールが、このスキヤットのスタート部分に惹かれたようだが、歌詞1番はスキヤットだけというユニークな構成にも拘わらず、山上路夫作詞のこの曲は、1969年レコード大賞作詞賞を受賞した。

旅行に出かける前にはまったく聞いたこともなかった曲が、帰ってからはリズムとハーモニーだけは何となく頭に入り、音楽オンチの私の耳にさえ自然に受け入れられた。いまでもこの曲が流れてくるとついハミングしては半世紀近く前のどつきりハネー・ムーンを思い出している。

(近藤節夫)